

A N Aホールディングス株式会社 説明会

2019年3月期 第1四半期 決算説明会

執行役員
グループ経理・財務室長

福澤 一郎

2018年8月1日



©ANAHD2018

1

- ◎ 本日はお忙しい中、2018年度 第1四半期 決算説明の電話会議にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ◎ 説明に先立ちまして、7月に発生した西日本における豪雨により、亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。
- ◎ 当社グループでは、主に航空運送を通して、被災地の支援に取り組んでいます。一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。
- ◎ それでは、説明を始めさせていただきます。
最初にスライドの3ページをご覧ください。

目次

2018年度 第1四半期決算

業績ハイライト	P. 3
連結決算概要	
経営成績	P. 4
財政状態	P. 5
キャッシュフロー	P. 6
セグメント別実績	P. 7
航空事業	
収入・費用	P. 9
営業利益 増減要因	P. 10
国内旅客事業	P. 11-12
国際旅客事業	P. 13-15
国内貨物事業	P. 17
国際貨物事業	P. 18-20
LCC事業	P. 21-22
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 23
航空事業以外のセグメント	P. 24
ボーイング787型機の運航について	P. 25

補足資料

運用航空機数	P. 28
国際旅客 方面別実績（構成比）	P. 29
国際貨物 方面別実績（構成比）	P. 30

ディスクロージャー
2017年度 優良企業

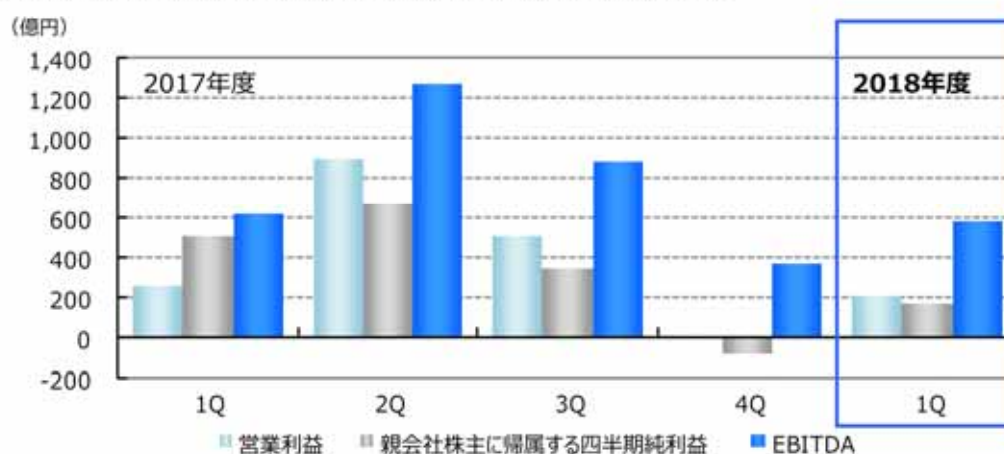


業績ハイライト

当第1四半期と前年度各四半期の業績比較

【2018年度 第1四半期 (連結)】

- 営業利益 : 200億円 (前年同期比 △ 53億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 161億円 (同 △ 349億円)
- EBITDA : 576億円 (同 △ 44億円)



©ANAHD2018

3

- ◎ 業績ハイライトです。
- ◎ 当第1四半期の営業利益は、前年同期から53億円減少して、200億円となりました。
- ◎ 純利益は、349億円減少して、161億円となりました。
昨年度の第1四半期に、Peach Aviationの連結化による株式評価益として、約340億円の特別利益を計上しました。
当第1四半期は、この反動により、純利益が減少しています。
- ◎ 4ページをご覧ください。

連結決算概要

経営成績	(億円)	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差
売上高		4,517	4,848	+ 331
営業費用		4,262	4,648	+ 385
営業利益		254	200	△ 53
営業利益率 (%)		5.6	4.1	△ 1.5pt
営業外損益		△ 6	△ 6	+ 0
経常利益		247	194	△ 53
特別損益		355	0	△ 355
親会社株主に帰属する四半期純利益		510	161	△ 349
四半期純利益		512	161	△ 350
その他包括利益		46	301	+ 254
包括利益		559	463	△ 96

©ANAHD2018

4

- ◎ 連結決算の概要です。
- ◎ 売上高は、前年同期から331億円、7パーセント増加して、4,848億円となりました。
国際線事業を中心に、旅客並びに貨物需要を着実に取り込みました。
- ◎ 一方、営業費用は、385億円、9パーセント増加して、4,648億円となりました。
年度計画に従って、「安全・品質サービス」並びに「人」に係るコストを掛けたほか、
原油市況の上昇に伴って、燃油費が増加したこと等が影響しています。
- ◎ この結果、営業利益は200億円、経常利益は194億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は161億円となりました。
- ◎ 5ページをご覧ください。

連結決算概要

財政状態

(億円)	FY2017 期末	FY2018 第1四半期末	前年度 期末差
総資産	25,624	25,942	+ 317
自己資本	9,886	10,053	+ 167
自己資本比率(%)	38.6	38.8	+ 0.2pt
有利子負債残高	7,983	8,234	+ 250
D/Eレシオ(倍) *	0.8	0.8	+ 0.0
純有利子負債残高 **	4,408	4,637	+ 229

* オフバランスリース債務額 121億円（前年度期末 205億円）を含むD/Eレシオは0.8倍（前年度期末0.8倍）

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - （流動資産（現金及び預金 + 有価証券））

- ◎ 財政状態です。
- ◎ 総資産は、前年度 期末より317億円増加して、2兆5,942億円となりました。
- ◎ 自己資本は、167億円増加して、1兆53億円となり、自己資本比率は、38.8パーセントとなりました。
- ◎ 有利子負債は、8,234億円となり、デット・エクイティ・レシオは、0.8倍となりました。
- ◎ 6 ページをご覧ください。

連結決算概要

キャッシュフロー

(億円)	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差
営業キャッシュフロー	956	810	△ 145
投資キャッシュフロー	△ 1,204	△ 609	+ 594
財務キャッシュフロー	△ 72	△ 105	△ 32
現金及び現金同等物の増減額	△ 323	98	+ 422
現金及び現金同等物の期首残高	3,090	2,705	+ 98
現金及び現金同等物の期末残高	2,766	2,803	
減価償却費	366	376	+ 9
設備投資額（固定資産のみ）	872	740	△ 132
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	△ 65	124	+ 190
EBITDA（営業利益＋減価償却費）	620	576	△ 44
EBITDAマージン（％）	13.7	11.9	△ 1.9pt

©ANAHD2018

6

- ◎ キャッシュフローです。
- ◎ 営業キャッシュフローは、810億円の収入となりました。
- ◎ 投資キャッシュフローは、航空機を中心とした設備投資等により、609億円の支出となりました。
- ◎ 財務キャッシュフローは、借入金の返済や社債の償還、配当金の支払等により、105億円の支出となりました。
- ◎ 下から3段目に記載の通り、3ヶ月超の定期・譲渡性預金の資金移動を除いた投資キャッシュフローから算出する、実質フリーキャッシュフローは、124億円の収入となりました。
- ◎ 7ページをご覧ください。

連結決算概要

セグメント別実績

(億円)

セグメント別実績		FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差
(億円)				
売上高	航空事業	3,968	4,264	+ 295
	航空関連事業	658	699	+ 41
	旅行事業	363	360	△ 2
	商社事業	335	369	+ 33
	その他	88	93	+ 5
	調整額	△ 895	△ 938	△ 42
	合計（連結）	4,517	4,848	+ 331
営業利益	航空事業	231	183	△ 48
	航空関連事業	42	42	△ 0
	旅行事業	6	△ 0	△ 7
	商社事業	9	7	△ 2
	その他	5	6	+ 0
	調整額	△ 42	△ 37	+ 5
	合計（連結）	254	200	△ 53

©ANAHD2018

7

- ◎ セグメント別の実績です。
- ◎ 航空事業に加えて、航空関連事業、商社事業で増収となりました。
旅行事業は、国内旅行の販売額が減少した影響により、減収となりました。
- ◎ 続きまして、航空事業の詳細についてご説明します。
10ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

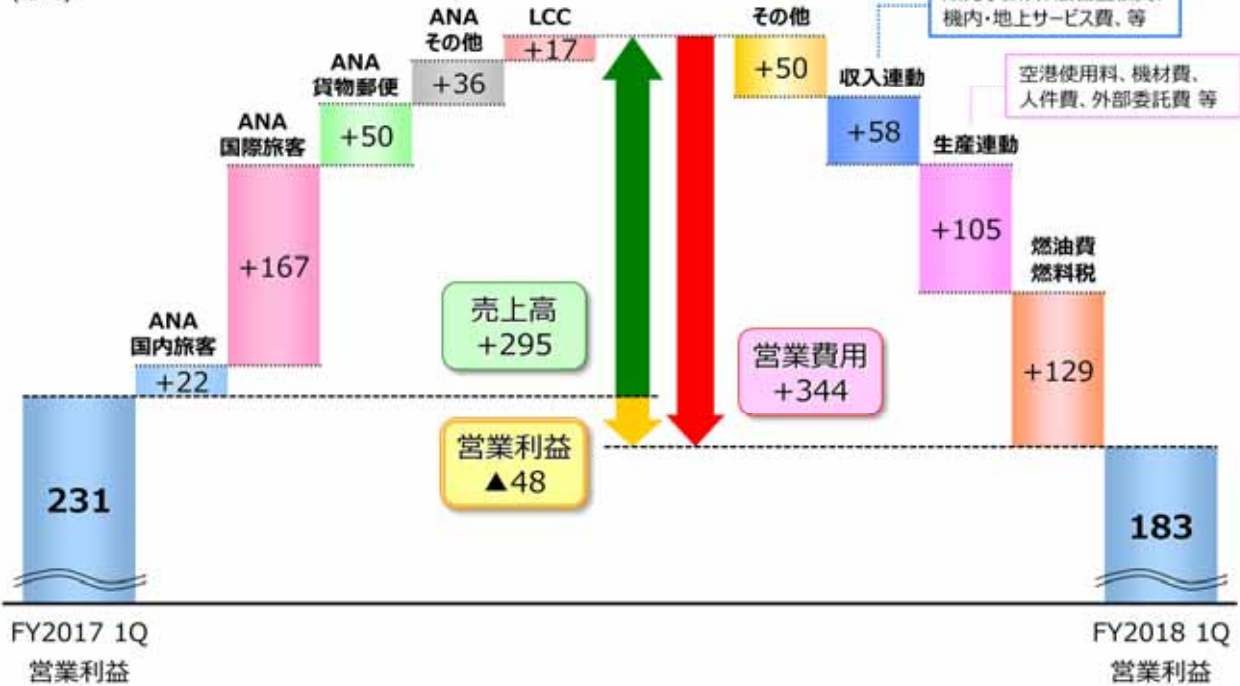
航空事業

収入・費用		FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差
(億円)				
売上高	国内旅客	1,546	1,568	+ 22
	ANA 国際旅客	1,394	1,562	+ 167
	貨物郵便	362	413	+ 50
	その他	470	507	+ 36
	LCC	193	211	+ 17
	合計	3,968	4,264	+ 295
営業費用	燃油費・燃料税	727	856	+ 129
	空港使用料	301	302	+ 1
	航空機材賃借費	275	296	+ 20
	減価償却費	350	359	+ 8
	整備部品・外注費	327	370	+ 43
	人件費	487	517	+ 29
	販売費	244	277	+ 32
	外部委託費	541	587	+ 46
	その他	479	511	+ 31
	合計	3,736	4,080	+ 344
営業利益	営業利益	231	183	△ 48
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	582	542	△ 39
	EBITDAマージン (%)	14.7	12.7	△ 1.9pt

航空事業

営業利益 増減要因

(億円)



©ANAHD2018

10

- ◎ 航空事業における営業利益の、前年同期比較です。
- ◎ 売上高は、295億円の増加となりました。
ご覧の通り、ANAとLCCの全事業で増収となりました。
- ◎ 営業費用は、344億円の増加となりました。
「ユニバーサルなサービス」の提供を含めた、空港における品質向上策や、事業拡大に備えた、人財リソースの確保など、経営の基盤固めとして、今年度の戦略に織り込んだ項目を、計画通りに進めました。
- ◎ これらの結果、航空事業の営業利益は、前年同期から48億円減少して、183億円となりました。
- ◎ なお、燃油費について、今年度は、既に燃油ヘッジの対応が完了していますが、燃油サーチャージ収入は、実際の市況推移から数ヶ月遅れて運賃に反映するため、第1四半期は、燃油費が先行して増加しています。
- ◎ 12ページをご覧ください。

航空事業

国内旅客事業（実績）

（ANAブランド）

	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	14,410	14,551	+ 1.0
旅客キロ（百万）	9,296	9,669	+ 4.0
旅客数（千人）	10,353	10,668	+ 3.0
座席利用率（%）	64.5	66.4	+ 1.9pt*
旅客収入（億円）	1,546	1,568	+ 1.5
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	10.7	10.8	+ 0.5
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	16.6	16.2	△ 2.4
単価（円） （旅客収入／旅客数）	14,934	14,706	△ 1.5

* 座席利用率のみ前年差

航空事業

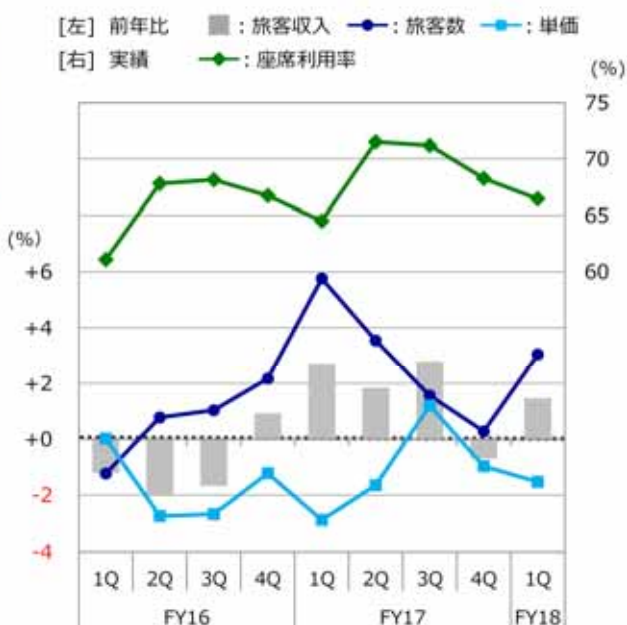
国内旅客事業（事業動向）

（ANAブランド）

第1四半期 収入増減要因



四半期別 実績推移



©ANAHD2018

12

- ◎ 国内旅客の状況です。
- ◎ 左の図は、第1四半期の増収額、20億円の要因分析です。
- ◎ 旅客数要因では、45億円の増収となりました。
ビジネス需要を安定的に維持しながら、レジャー需要を取り込んだほか、訪日旅客を対象とした国内線の利用促進にも取り組みました。
- ◎ 一方、単価要因では、低需要便を対象としたプロモーション運賃の投入など、収入の拡大を目的とした、柔軟な運賃施策を展開したことにより、25億円の減収となりました。
- ◎ 右の図は、四半期別の実績推移をお示しています。
需給適合を推進してきた結果、座席利用率は、66.4パーセントとなり、第1四半期の実績として、過去最高を更新しました。
- ◎ 14ページをご覧ください。

航空事業

国際旅客事業（実績）

（ANAブランド）

	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	15,759	16,608	+ 5.4
旅客キロ（百万）	11,608	12,509	+ 7.8
旅客数（千人）	2,246	2,509	+ 11.7
座席利用率（%）	73.7	75.3	+ 1.7pt*
旅客収入（億円）	1,394	1,562	+ 12.0
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	8.9	9.4	+ 6.3
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	12.0	12.5	+ 4.0
単価（円） （旅客収入／旅客数）	62,073	62,273	+ 0.3

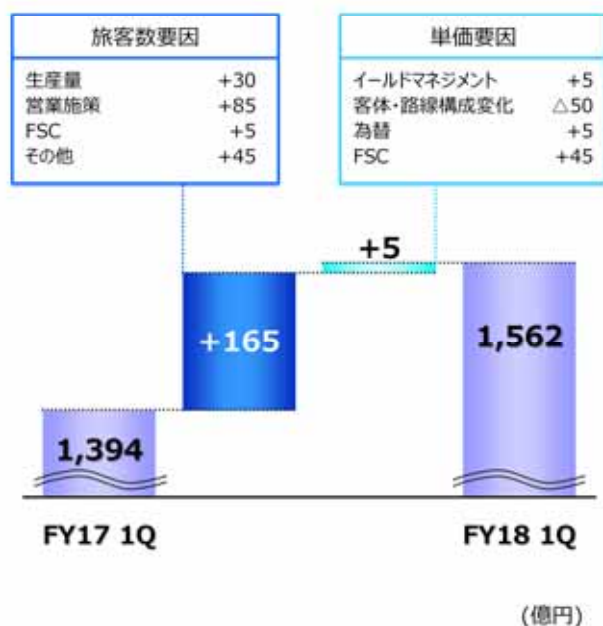
* 座席利用率のみ前年差

航空事業

国際旅客事業（事業動向）

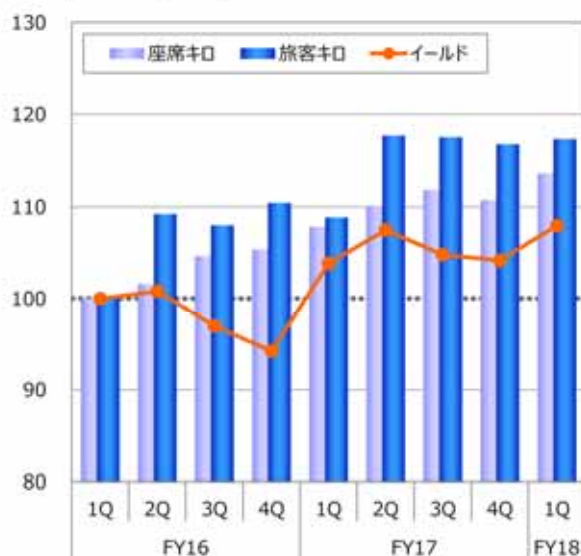
（ANAブランド）

第1四半期 収入増減要因



四半期別 実績推移

指数 (FY16 1Q=100)



©ANAHD2018

14

- ◎ 国際旅客の状況です。
- ◎ 左の図をご覧ください。
第1四半期の増収額、170億円の要因分析です。
- ◎ 旅客数要因では、生産量の拡大に合わせ、
各営業施策を強化して需要を取り込んだ結果、165億円の増収となりました。
- ◎ 単価要因では、堅調な需要動向を背景に、イールドマネジメントを徹底した中で、
客体・路線構成が変化したこと等により、5億円の増収となりました。
- ◎ 続いて、15ページをご覧ください。

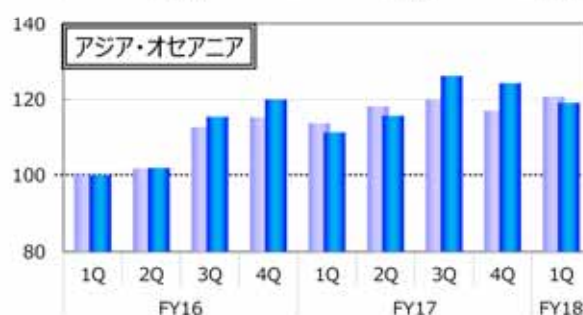
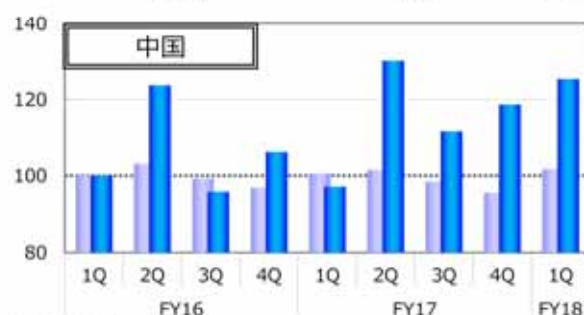
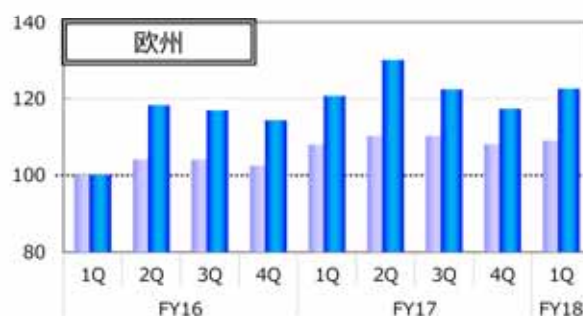
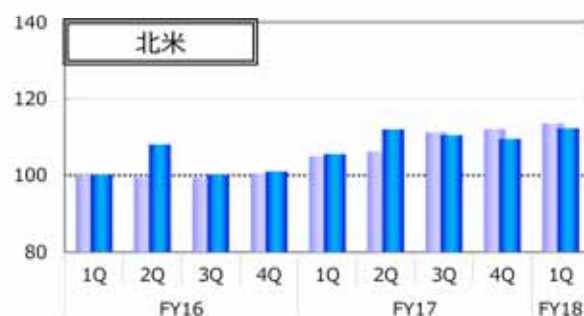
航空事業

国際旅客事業（事業動向）

（ANAブランド）

四半期別・方面別 推移

指数 (FY16 1Q=100) ■ : 座席キロ ■ : 旅客キロ



©ANAHD2018

15

- ◎ 方面別の供給と需要の推移です。
- ◎ 当第1四半期の旅客キロは、全方面で前年を上回る実績となりました。
- ◎ 左下にお示した中国方面では、
日本発のビジネス需要と、中国発の訪日旅客をターゲットに、双方向で需要を取り込んだ結果、
座席キロが前年並みに推移した中で、旅客キロは約1.3倍に拡大しました。
座席利用率も約75パーセントとなり、前年から大幅な伸びとなりました。
- ◎ また、6月に羽田—バンコク線を増便しましたが、
羽田と成田を合わせた、バンコク線全体の座席利用率は、
6月、7月ともに、80パーセント前後となっており、順調に推移しています。
- ◎ 20ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

航空事業

国内貨物事業（実績）

（ANAブランド）

	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	425	426	+ 0.4
有償貨物トンキロ（百万）	104	100	△ 4.4
貨物輸送重量（千トン）	101	96	△ 5.3
貨物重量利用率（%）	24.7	23.5	△ 1.2pt*
貨物収入（億円）	72	70	△ 2.4
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	17.0	16.5	△ 2.8
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	68.8	70.3	+ 2.1
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	71	73	+ 3.1

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業（実績）

（ANAブランド）

	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,674	1,798	+ 7.4
有償貨物トンキロ（百万）	1,098	1,134	+ 3.3
貨物輸送重量（千トン）	243	245	+ 0.9
貨物重量利用率（%）	65.6	63.1	△ 2.5pt*
貨物収入（億円）	268	320	+ 19.0
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	16.1	17.8	+ 10.8
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	24.5	28.2	+ 15.2
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	110	130	+ 18.0

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

【参考】国際フレイター（実績）

本表のデータは、P.18記載実績の内数

	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	266	307	+ 15.3
有償貨物トンキロ（百万）	168	216	+ 28.2
貨物輸送重量（千トン）	90	93	+ 2.8
貨物重量利用率（%）	63.2	70.3	+ 7.1pt*
貨物収入（億円）	66	92	+ 38.6
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	25.0	30.1	+ 20.2
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	39.6	42.8	+ 8.1
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	73	99	+ 34.8

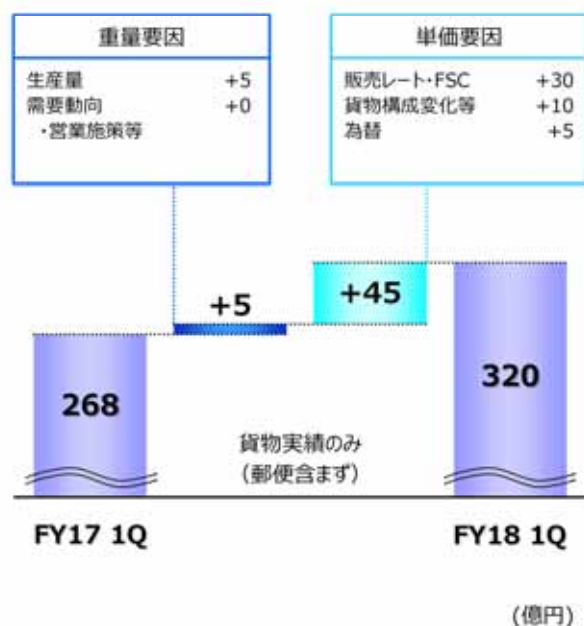
* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業（事業動向）

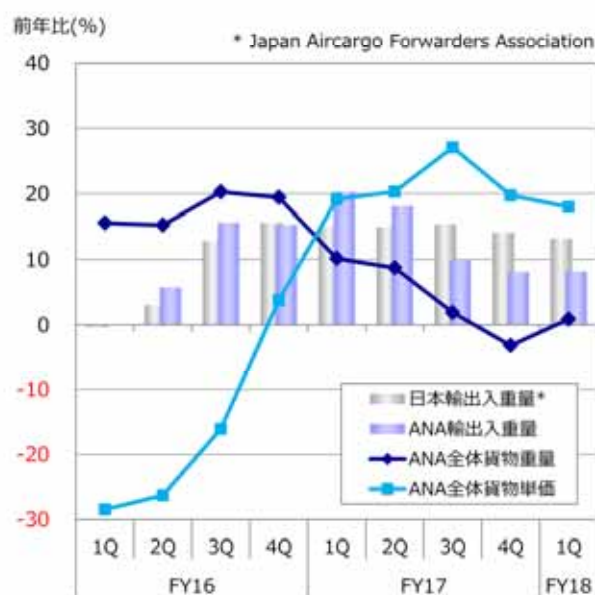
（ANAブランド）

第1四半期 収入増減要因



©ANAHD2018

四半期別 実績推移



FY16の前年比については、販売手数料の廃止による影響を除いた実質的な単価で算出

20

- ◎ 国際貨物の状況です。
- ◎ 左の図は、第1四半期の増収額、50億円の要因分析です。
- ◎ 重量要因では、日本発着の輸出入貨物の取り込みが奏功した結果、5億円の増収となりました。
- ◎ 単価要因では、堅調な需要動向を背景に、販売レートの向上に取り組んだこと等により、45億円の増収となりました。
- ◎ 右の図は、輸出入貨物の総需要と、当社グループ実績の推移です。
水色の折れ線グラフは、単価の前年比をお示していますが、昨年度の第1四半期より、2割前後の高い伸び率を維持しています。
- ◎ 引き続き、フレイターを含めた貨物便ネットワークの最適化を図りながら、旺盛な需要を効率的に取り込んでいきます。
- ◎ 21ページをご覧ください。

航空事業

LCC事業（実績）

（Peach Aviation・バニラエア 合計）

	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	2,832	2,947	+ 4.1
旅客キロ（百万）	2,418	2,547	+ 5.3
旅客数（千人）	1,837	1,997	+ 8.7
座席利用率（%）	85.4	86.4	+ 1.0pt*
売上高（億円）**	193	211	+ 9.2
ユニットレベニュー（円） （売上高／座席キロ）	6.8	7.2	+ 5.0
イールド（円） （売上高／旅客キロ）	8.0	8.3	+ 3.7
単価（円） （売上高／旅客数）	10,553	10,606	+ 0.5

* 座席利用率のみ前年差

** 売上高に付帯収入を含む

©ANAHD2018

21

◎ LCC事業の実績です。

本スライドの数値は、Peach Aviationと、バニラエアの合算値をお示ししています。

◎ 売上高は前年同期から17億円増加して、211億円となりました。

2社合計の座席利用率は、86.4パーセントとなり、高い水準を維持しています。

◎ 3月末から就航した、バニラエアの、福岡－台北線や、

4月末から就航した、Peach Aviationの、那覇－高雄線においては、

第1四半期の座席利用率が、いずれも約90パーセントとなり、好調な滑り出しとなりました。

日本発のレジャー需要や、海外発の訪日旅客を中心に、新しい需要を創出しています。

◎ 次の22ページに、LCC各社の輸送実績をお示していますので、ご確認ください。

◎ 最後に、25ページをご覧ください。

航空事業

Peach Aviation 輸送実績

(国内線・国際線合計)	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	1,611	1,814	+ 12.6
旅客キロ (百万)	1,382	1,598	+ 15.7
旅客数 (千人)	1,186	1,365	+ 15.1
座席利用率 (%)	85.8	88.1	+ 2.4pt*

バニラエア 輸送実績

(国内線・国際線合計)	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	1,221	1,133	△ 7.2
旅客キロ (百万)	1,035	948	△ 8.4
旅客数 (千人)	651	632	△ 3.0
座席利用率 (%)	84.8	83.7	△ 1.2pt*

* 座席利用率のみ前年差

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANAブランド)

1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外 (燃油サーチャージ収入で対応)

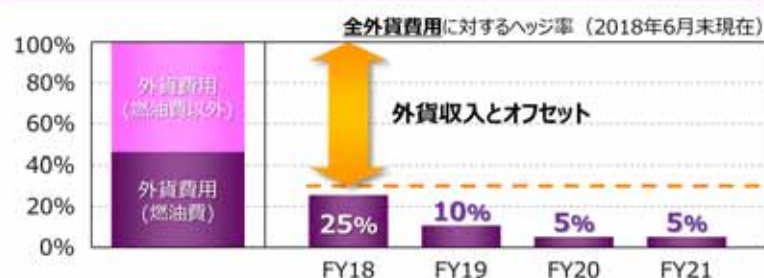
(US\$/bbl)	FY18 1Q実績	FY18前提
ドバイ原油	72.1	62
シンガポールクロシン	87.4	75



2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)

(円/US\$)	FY18 1Q実績	FY18前提
ドル円レート	109.2	110



航空事業以外のセグメント

セグメント別実績

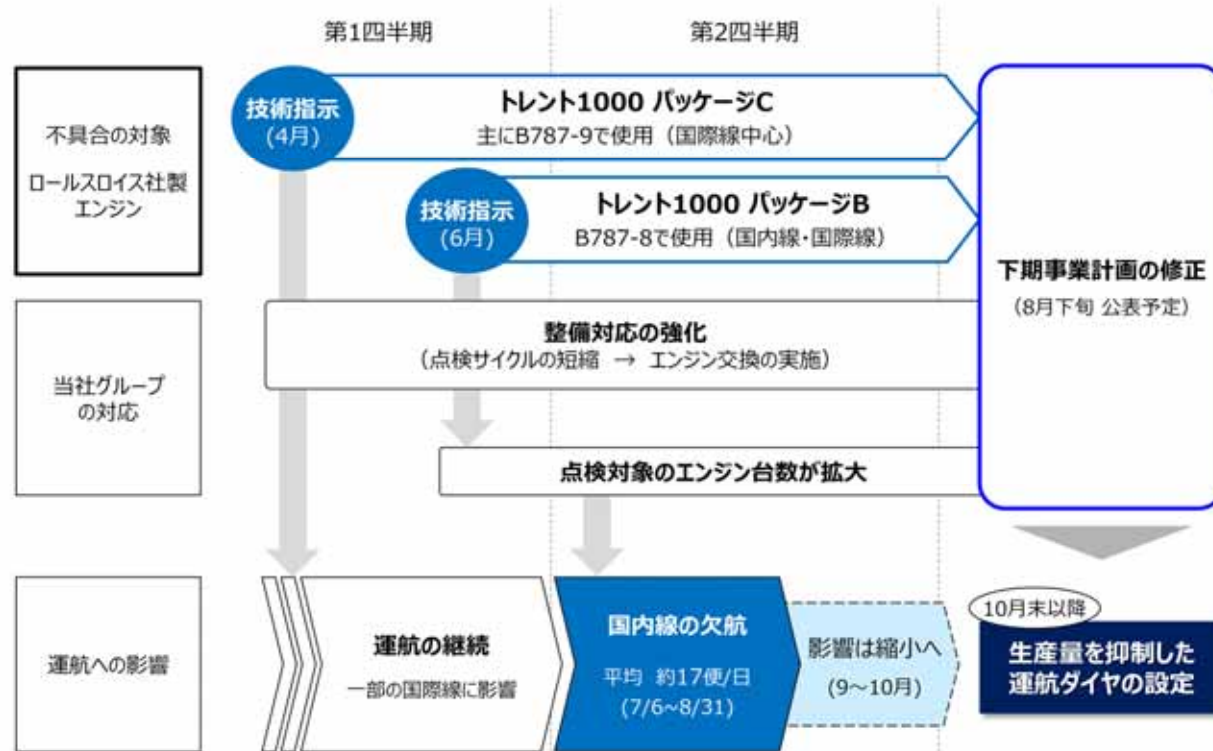
(億円)

	航空関連事業			旅行事業		
	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差
売上高	658	699	+ 41	363	360	△ 2
営業利益	42	42	△ 0	6	△ 0	△ 7
減価償却費	11	11	△ 0	0	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	54	53	△ 0	7	0	△ 7
EBITDAマージン(%)	8.2	7.7	△ 0.6pt	2.1	0.1	△ 2.0pt

	商社事業			その他		
	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差	FY2017 第1四半期	FY2018 第1四半期	前年差
売上高	335	369	+ 33	88	93	+ 5
営業利益	9	7	△ 2	5	6	+ 0
減価償却費	3	3	+ 0	0	0	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	12	10	△ 2	6	6	+ 0
EBITDAマージン(%)	3.8	2.8	△ 1.0pt	7.2	7.1	△ 0.1pt

ボーイング787型機の運航について

※2018/8/1 現在



©ANAHD2018

25

- ◎ ボーイング787型機の運航について、ご説明します。
- ◎ 当社グループが採用している、ロールスロイス社製エンジンの点検と整備に伴い、7月上旬から国内線の一部を欠航しています。
ご利用のお客様をはじめとする関係者の皆さまに、ご心配とご迷惑をお掛けしていることを、お詫び申し上げます。
- ◎ ご覧の通り、今年4月に、国土交通省から最初の技術指示が発行されました。整備対応を強化するため、法制化された点検を確実に実施して安全性を担保した上で、運航を行ってきました。
- ◎ その後、6月に発行された追加の技術指示により、点検の対象となるエンジン台数が拡大しました。このような中、メーカーからの部品供給が逼迫して、運航に必要な機材数を確保することが困難となり、やむを得ず、7月以降、国内線の一部の運航ダイヤを欠航することとしました。
- ◎ 今後の対応として、9月以降は、1日あたりの欠航便数を抑制しながら、運航への影響を縮小していく方針です。
また、10月末以降については、安全を最優先に、年度当初の事業計画を見直し、生産量を予め抑制した運航ダイヤを設定することで、直前の欠航や機材変更などを、極力回避したいと考えています。
修正計画に基づいた生産量等の詳細については、8月下旬に公表する予定です。
- ◎ これからも、関係先と協力しながら本件について適切に対応し、安全運航の確保に万全を期していくとともに、堅調な需要を着実に取り込んでまいりますので、皆さまのご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ◎ 以上で私からの説明を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

Intentionally Left Blank

補足資料



補足資料

運用航空機数		FY2017 期末	FY2018 第1四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
ANA	Boeing 777-300/-300ER	29	29	-	26	3
	Boeing 777-200/-200ER	21	21	-	15	6
	Boeing 787-9	28	28	-	25	3
	Boeing 787-8	36	36	-	31	5
	Boeing 767-300/-300ER	34	34	-	23	11
	Boeing 767-300F/-300BCF	12	12	-	8	4
	Airbus A321-200neo	2	3	+ 1	-	3
	Airbus A321-200	4	4	-	-	4
	Airbus A320-200neo	3	4	+ 1	4	-
	Airbus A320-200	7	7	-	7	-
	Boeing 737-800	36	36	-	24	12
	Boeing 737-700	7	7	-	7	-
	Boeing 737-500	14	12	△ 2	12	-
	Bombardier DHC-8-400	24	24	-	24	-
	ANA 計	257	257	-	206	51
Vanilla Air peach	Airbus A320-200	15	15	-	-	15
	Airbus A320-200	20	20	-	-	20
	ANAグループ 計	292	292	-	206	86

補足資料

国際旅客 方面別実績（構成比）

（ANAブランド）

FY2018
第1四半期
構成比

前年差

旅客収入	北米	30.9	△ 1.1
	欧州	19.9	△ 0.6
	中国	14.7	+ 2.3
	アジア・オセアニア	29.9	△ 0.7
	リゾート	4.6	+ 0.1
座席キロ	北米	33.7	+ 0.9
	欧州	15.5	△ 0.7
	中国	10.7	△ 0.4
	アジア・オセアニア	35.2	+ 0.3
	リゾート	4.9	△ 0.0
旅客キロ	北米	33.0	△ 0.4
	欧州	16.3	△ 1.0
	中国	10.5	+ 1.7
	アジア・オセアニア	34.8	△ 0.2
	リゾート	5.4	△ 0.1

補足資料

国際貨物 方面別実績（構成比）

（ANAブランド）

FY2018
第1四半期
構成比

前年差

貨物収入	北米	34.6	+ 3.0
	欧州	14.4	△ 1.8
	中国	23.5	△ 0.9
	アジア・オセアニア	23.5	+ 0.2
	その他	4.0	△ 0.5
有効貨物 トンキロ	北米	41.2	+ 4.0
	欧州	15.1	△ 1.0
	中国	15.2	△ 1.1
	アジア・オセアニア	26.5	△ 1.2
	その他	2.1	△ 0.6
有償貨物 トンキロ	北米	42.2	+ 4.2
	欧州	16.8	△ 3.7
	中国	13.4	△ 0.6
	アジア・オセアニア	25.3	+ 0.5
	その他	2.3	△ 0.5

グループ経営理念	安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します
グループ安全理念	<p>安全は経営の基盤であり社会への責務である</p> <p>私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます</p> <p>私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します</p>
グループ経営ビジョン	<p>ANAグループは、お客様満足と価値創造で</p> <p>世界のリーディングエアライングループを目指します</p>
グループ行動指針 (ANA's Way)	<p>私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全 (Safety) 安全こそ経営の基盤、守り続けます。 2. お客様視点 (Customer Orientation) 常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。 3. 社会への責任 (Social Responsibility) 誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。 4. チームスピリット (Team Spirit) 多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。 5. 努力と挑戦 (Endeavor) グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp